

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



ゆるキャラ「くまモン」も登場、各展示ブースに立ち止まる来場者



2011 国際森林年

【計画部 指導普及課】10月8日(土)と10月9日(日)の2日間、大阪市内(近畿中国森林管理局・毛馬桜之宮公園とOAP周辺)において、「水都おおさかもり森林の市2011」が開催され約2万5千人(推計値)の来場者がありました。

「森林の市」は森林・林業及び水資源に関わる行政団体や民間団体、地元住民のボランティアスタッフの参加・協力により開催してきたイベントで、今年で25回目となります。

国際森林年の今年は「2011 国際森林年 暮らしの中に木づかいを **活かそう日本の森林**」をテーマに、都会の真ん中で森林や木を感じる空間を演出し、実際に木にふれることで木の良さを知ってもらい、森林・林業の大切さや木材利用の重要性について理解を深めていただくことができました。

開催期間中は2日間とも好天に恵まれ、丸太切りや・本箱づくり、木工クラフトなどの体験コーナー、木製品・地域の特産品など販売コーナー、地域の林業のパネル展示、キッズボート・ドラゴンボートの水上体験、木製品のオークション、スタンプラリーなど賑やかに行われ「毎年楽しみにしている」「今後も続けてほしい」などたくさんの声がありました。

水都おおさか森林の市 2011

(催し物の一部紹介)



オープニングセレモニーで三宅実行委員長による開会の挨拶



木工製品の遊具やおもちゃで戯れる幼児



大阪市立扇町総合高等学校吹奏楽部によるマーチングパレード



森林のギャラリー内で丸太切りに挑戦する子供達



緑の募金に協力する来場者



各展示ブースに立ち止まり、品物を拝見する来場者



親子のモックン作りを手伝うスタッフ



キッズボートに乗船し、大川を遊覧する親子

地域ニュース

夏休み親子木工教室の開催

【岡山森林管理署】8月22日（月）、岡山市にある中国四国農政局において、小学生とその保護者を対象にした「夏休み親子木工教室」を開催しました。

岡山森林管理署では、毎年、中国四国農政局1階の「消費者の部屋」で、森林のはたらきや木材利用についての展示を行っていますが、「展示だけでなく、体験を通じて子供たちが木や森に親しみ、その良さを知らうきっかけ作りをしたい」という思いから、今回初めて中国四国農政局と合同で森林教室と木工クラフトを行いました。



参加者の親子を前に、森林のはたらきについて説明する職員



完成した作品を手に持って、みんなで記念撮影

今回が初めての試みであったため、参加者が集まるか不安でしたが、募集人数を超える応募があり、当日は親子12組27名の参加者で賑わいました。

木や森に触れるせっかくの機会。少しでも森林や林業を身近に感じてもらおうと、会場のいたるところに当署職員が撮影した国有林の写真を貼りました。

また、職員が実際に現場（国有林）での仕事で使用する道具類も展示しました。「これ、何に使うん？」見慣れない道具の数々に子供たちは興味津々でした。

森林教室では、当署職員が森林のはたらきについて説明をしました。小学校低学年の子供たちがほとんどでしたが、全員が真剣に耳を傾けていました。

少し森のことがわかったところで、いよいよ木工クラフト。木の輪切りや小枝、どんぐりやクルミなどの

木の実、松ぼっくりの様々な『森の恵み』を使って自由に作ります。

参加者は、作品の完成図を思い浮かべながら、材料の一つ一つをじ〜っと見つめて、思い思いに材料を選んでいました。

「こんなおっきな松ぼっくり、初めて見た！」両手で収まりきらないテグダマツの松ぼっくりに参加者はびっくりしていました。

作品づくりに夢中になって、気付けば終わりの時間。2時間かけて一生懸命作った作品は、どれもアイデアがいっぱい詰まっていた素敵なものばかりでした。

イベントが終わり、子供たちは、世界に一つだけの作品を大切に抱えて嬉しそうに帰っていきました。夏休みの思い出とともに、いつまでもこの『森の恵み』を大切にしてほしいです。



世界にひとつだけのオリジナル作品

関連ホームページ

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/okayama/>

インターンシップの受け入れ

【計画部 森林技術センター】森林技術センターでは、8月22日から26日までの5日間、農林水産省就業体験の受入を行いました。

体験者は新潟大学農学部生産環境科3年生の岸本まさひろさん。

岸本さんは近畿大学理工学部から今年4月に新潟大学農学部へ編入したため、森林・林業に関する知識をあまり持ち合わせていないとのことでした。（本人談）

初日は岡田所長より国有林野事業、近畿中国森林管理局の概要説明が行われ、続いて藤原企画官より翌日からの実習カリキュラムの説明、森林調査の方法及び使用する調査器具の説明等が行われました。

実習では、当センターの技術開発課題「育成複層林施業技術の開発」に関する現地調査と調査結果のとりまとめを藤原企画官の指導により体験しました。

現地調査では当センター職員と一緒に複層林の上・

下層木の胸高直径、樹高等の生長量調査を二日間行い、両日とも慣れない林内作業とあいにくの雨天のため作業服を一人だけ汚し、人一倍頑張ったような姿で帰ってきました。

職員の指導の下、立木の調査集計をまとめている様子



輪尺を使って初めて立木の調査を体験する岸本さん

輪尺：立木の材積を算出するために用いる、立木の胸高直径を測る道具

3日目は調査野帳の集計、結果のとりまとめ及び前回の調査結果との比較・分析作業を体験しました。

最初は慣れない環境での就業体験に緊張気味でしたが、初日の懇親会で早々と職員と打ち解け、2日目からは若者らしくハツラツとした動きで就業体験に一生懸命取り組みました。

岸本さんは、林野庁への就職も考えているとのことなので、今回の経験を活かし今後の勉強に取り組んで頂きたいと思います。

また、当センターでは今後も農林水産就業体験の受入を継続し、多くの方に国有林野事業及び当センターの業務をPRしていきたいと考えています。

関連ホームページ

http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/g_center/

「三重の森林と木づかいフェア」に参加

【三重森林管理署】「三重の森林と木づかいフェア」が10月15日、三重県尾鷲市の熊野古道センターで開催され、当署も木工のブースを開設しました。

フェアは大切な働きのある森林や木にふれて、森林を身近に感じてもらうきっかけとするため開催され、今回は「国際森林年」の趣旨を広くPRして、多くの人が森林づくりへかかわる契機となるよう、「国際森林

年」記念事業として実施されました。

当日は、あいにくの雨模様となり、来場者の減少が心配されましたが、普段木材に触れることの少ない子供たちにとって、様々な木を使い、自分だけの作品を作る体験は新鮮だったようで、300枚用意した木の円盤がほとんど底をつくような状態でした。



雨の中、開会の挨拶をする三重県知事



森林管理署ブース内で、輪切りにした木の円盤に絵を描いたりして、木とふれあっている子供達

また、一緒に来た保護者には、円盤は間伐材等を利用しており、このように使用すれば木材の有効利用にもなるし、本日作成した作品も大切に使うてもらえれば、ささやかでも地球温暖化防止に役立っていることを伝え、驚いたり感心したりしていました。

今後も、子供たちに木とふれあえる機会を提供していきたいと思います。

関連ホームページ

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/mie/>



お知らせ



森林のギャラリー（局庁舎1階）

【11月の展示スケジュール】

11/14～11/18

人と自然（切り絵） 【きりえ葉月会】

11/20～11/28

アルブル木工教室作品展 【(有)アルブル】